

# 国際ICT利用研究学会 論文誌

Journal of International ICT Application Research Society

JIIARS

2018年 第2巻 第1号

May 2018 Vol.2 No.1

1

## ICT の進歩と新たな問題の解決

国際 ICT 利用研究学会  
常任理事 福田 真規夫

ICT は単なる情報通信技術をあらわす言葉というよりは、慣用的に「情報」を指す言葉としても用いられている。もちろん、ICT と情報では、その概念の大きさは比較にならないものであることは言うまでもない。片方は単なる技術、もう片方は文化や知識を成り立たせているもので、とても同じ次元での比較はできないが、我々の普段の会話や、メディアでの取り扱いなどでは、しばしば同義のものとして扱われている場合もある。

近年では、ICT が国民レベルまで普及し、ICT への抵抗感はもちろん、特別視することなく、現代人にとって、例えばスマートフォンなどは自身の分身のような存在にもなっている。



何か不明なことがあれば、AI（人工知能）を使って自然言語で問い合わせたり、機械翻訳によって外国など未知の世界と円滑なコミュニケーションをとったりすることが容易になってきた。

このような、特に知識や情報を扱う技術が進歩すると、当然それにつれて社会も変化してくる。そして、社会が変化してくると、人間の価値観や規範にも影響を与えてくる。今まで人間同士のつながりの中で、情報を交換したり、行動してきたことが、時にわずらわしくもある人間同士のつながりを省略した形で展開されることが可能になってきた。そして、人間から得られる情報や知識より、ICT を通して得たものの方が正確で効率よく得られることになり、ICT に頼った方がスピードの速い現代社会の流れの中でうまく生きていけることになる。このようなことが、ICT と情報が同義に扱われてくる背景になったと考えられる。

ただし、ICT の発展は、ものごとを効率的に進められる反面、その裏には多くの問題も孕んでいる。例えば、情報の格差が進み、それが経済の格差の拡大に結びつき、新たに多くの社会的な問題を生み出してくる。

今後はこれらの急速な ICT の普及によって、爆発的に膨れ上がる今まで遭遇したことのない問題を、我々は解決しながら生きて行かなければならない困難な状況にもなる。

この今回の論文集には、次の i) から iii) の 3 編の論文が掲載されている。これらは、ICT を使って情報の分析やさまざまな研究について述べているが、研究の対象は人間およびその営みである点で、今後の未知の問題の解決に大きな貢献が期待できる若手研究者の研究成果である。

- i) 「福島県いわき市の住民を対象とした地震防災意識調査」
- ii) 「超臨場感テレワークシステムにおける遠隔コミュニケーション評価」
- iii) 「Wi-Fi および端末センサ情報を用いた 3 次元屋内位置測位手法の検討」

#### 略 歴

1952 年和歌山県生まれ。

太成学院大学経営学部教授。大阪国際大学名誉教授。

博士（工学，大阪大学）。

専門はヒューマンインターフェース，経営情報学，教育工学など。

# 目次

## 巻頭言

ICT の進歩と新たな問題の解決 国際 ICT 利用研究学会 常任理事 福田 真規夫 . . . . .	1
---	---

## 論文

福島県いわき市の住民を対象とした地震防災意識調査 中村 洋介, 島崎 麻衣 (福島大学) . . . . .	3
超臨場感テレワークシステムにおける遠隔コミュニケーション評価 櫻井広幸 (立正大学), 杉本雅彦, 日向野智子 (東京未来大学) . . . . .	12
Wi-Fi および端末センサ情報を用いた 3 次元屋内位置測位手法の検討 田巻櫻子, 田中敏幸 (慶應義塾大学) . . . . .	24

## 編集後記

国際 ICT 利用研究学会 理事 次郎丸 沢 (株式会社カンファレンスサービス)	
--	--

## 編集後記

皆様のご尽力により国際ICT利用研究学会論文誌の第2巻第1号をこうして無事発刊することが出来ました。創刊号が発刊されて1年近くが経ちました。時が過ぎ去るのは早いものです。

最近、月日が経つのが早いと思うことが増えてきました。「ジャネの法則（心理的に感じる年月の長さは年齢に反比例するという説）」を実感できる年齢になってきたということでしょうか。私の娘は現在6歳ですが、3年前のある主張について覚えているか尋ねた所、全く覚えていないとのことでした。たった3年前なのにと思いましたが、彼女から見れば人生の半分の時間です。40歳の私であれば大学生の頃ということになります。確かに私自身も20年前の自分自身の主張をすべて覚えてはいません。

さて、福田先生が巻頭言でICTと情報について言及されていましたが、私もICTと情報の取り扱いについて感じるどころがあります。ある日、キャリアの授業で学生に対して会社を選ぶ際にどのような行動をしているかを聞いたところ、そのクラスではほとんどの学生がウェブや書籍のいわゆる文字情報のみで決めていました。ICTで伝わる情報は全体のうちのごく一部で、最も大事な情報は非公開なものか言語化されていないものだと信じている私にとってはとても衝撃的なことでした。

20年前の私は、将来進むべき方向を決めるために気になっていた分野に実際に入ってみて、その仕事を一生続けることが出来るかを見極めることに一生懸命になっていました。FM局、リフォーム、営業、そして塾や家庭教師などの世界に飛び込み、その場に入ってみないと分からない「自分にしか感じ取れない情報」を得ることに必死でした。そのおかげか、現在の仕事に納得しています。

この話は私がキャリアの授業の初日にお話ししている内容の一部です。雇用のミスマッチを防ぐために学生側が出来る対策の一つなのではないかと思ひ、毎年話しています。学生の反応も悪くなく、表情の変化が読み取れるので何かを感じてくれているのだらうと思ひますし、実際に行動してみて良かったというプラスのフィードバックも受けているので、全く役に立たない意見でも無さそうです。

ちなみに、娘が3年前に主張していた内容は、将来何になりたいかという事でした。あろうことか、娘は「人参になりたい」と言うではありませんか！キャリアの授業を担当している私としては、相手が思い描く将来像を頭から否定してはいけないと思ひ、私は「頑張ったらなれるよ」と答えてしまいました。6歳になった今では、何になりたいかを秘密にするようになりました。本当に時が過ぎるのは早いものです。

国際ICT利用研究学会 理事

株式会社カンファレンスサービス 代表取締役 次郎丸 沢

---

国際ICT利用研究学会論文誌 第2巻 第1号

Journal of International ICT Application Research Society Vol.2 No.1

2018年5月1日発行

発行者 国際ICT利用研究学会 論文誌編集委員会（委員長 山下 倫範）

表紙デザイン 上山 慶恵

印刷 株式会社カンファレンスサービス

問い合わせ先 office@iiiar.org